

事業の基礎情報

事業実施地域	福岡県豊前市
人材育成の対象	地域経済の活性化にもつなげるサステイナブルな事業を考えている若手(20～40代)
人材育成の手法	①フィールドワークで地域課題を理解/把握し、②研修/ワークショップ等で課題解決方法を学ぶ。最終的に③実証テスト（現地スタディ）にて、実証可能性を検証する。
人材育成の内容	「交通」×他分野を絡めた事業を立案し、まちづくり分野でイノベーションを興すスキルを育成する。
想定育成人数	20～30名程度【①②:20～30名程度、③:6～8プロジェクト】

取組の概要

（現状の地域課題と事業目的）

◆地域課題

- ・豊前市内の市バスは、地域住民にとって重要な公共交通であるが、利用客の減少から、赤字となっている。
- ・豊前市のJR宇島駅は特急が停車する駅ではあるが、停車本数は減少していき、駅前の賑わいが少なくなっている。

◆事業目的

- ・市バスやJR九州等の交通と他分野の連携したイノベーションを興せる人材を育成し、交通及び沿線の賑わいを創出する取り組みとする。

（事業の概要）

- ①1次産業(漁業/農業/林業)、2次産業(加工/生産業者等)、3次産業(観光/交通等)、まちづくり人材(地域おこし協力隊など)
- ② ①フィールドワークで地域課題を理解/把握し、②研修/ワークショップ等で課題解決方法/イノベーションの興し方を学ぶ。
最終的に③実証テスト（現地スタディ）にて、実証可能性を検証する。それらのアウトプットを④成果報告会として実施する。
- ③ 交通分野における課題・イノベーションの種を考えるフィールドワーク/ワークショップや、それらのイノベーションの種を具体化するための専門的知見を有した方によるセミナー、フィージビリティスタディとしての実証テスト
- ④「交通×他分野」におけるイノベーションの興し方・事業の育て方を学ぶ

取組の詳細

(事業により見込まれる効果)

- ・イノベーション人材が20～30名程度、コーディネーター人材3～5名程度が生まれ、交通と連携した幅広い取り組みが継続的に実施される
 - ・大小問わず新たなプロジェクトが6-8程度立ち上がり、地域経済の活性化につながることで、市全体として大きなイノベーションに繋がる
 - ・新たな挑戦を応援する市としてのイメージが確立され、チャレンジしたい若者の移住者が増加する
 - ・「多分野×交通」という文脈の新事業から、JR九州や市バスを利用する市民及び観光客が増加し、域内消費拡大に繋がる
- イメージ例1：【“観光”×交通】森林セラピーと交通手段がシームレスにつながり、誘客数の増加を図る取り組み
- イメージ例2：【“漁業”×交通】ヒトデによる忌避剤の開発により、鳥獣と電車/バス等との衝突を防ぐ取り組み
- イメージ例3：【“農業”×交通】市バス終着点の里山エリアにおいて、地場産野菜マルシェを開催し、回遊性を高める取り組み

(事業実施手順・スケジュール)

● 事業計画策定	5月～6月
① フィールドワーク	6～7月【2回程度】
② ワークショップ/研修	8～9月【4回程度】各分野(漁業/農業/デザイン/まちづくり等)の専門的知見を有する講師を招聘
③ 実証テスト(現地スタディ)	10～1月【6-8プロジェクト程度】 ※アドバイザーとして九州大学とも連携
④ 成果報告会	2月上旬

(補助事業実施後の予定)

- ・【継続性】本事業で育成したコーディネーター人材を軸とした共創プラットフォームメンバーを中心に、引き続きワークショップやセミナー等の企画・運営を行い、イノベーション人材の発掘、育成を継続的に続ける。
- ・【運営面】JR九州や市バスの利用数増加に向け、豊前市と交通がWin-Winとなる事業を、豊前観光まちづくり協会が自主事業として、連携強化、事業推進を図っていく。
- ・【資金面】豊前観光まちづくり協会の自主財源を活用するとともに、県や国、市の補助金、助成金を活用する支援等を行いながら、コーディネート人材、イノベーション人材が自立するためのサポートを実施する。